

## 【事例 H28-47】大分県由布市

## 心の健康づくり事業

【概要】市健康増進課が市教育委員会と共同で実施。若年層に関わる支援者を養成し支援者間の連携を深めることを目的として、市内の小・中・高等学校に配置されているスクールカウンセラーと保健師・臨床心理士（健康増進課職員）とスクールソーシャルワーカー（教育委員会所属）を対象に研修会を開催した。内容は、児童・生徒の自傷行為と不登校に関する事例検討、地域内における支援等の情報交換を行った。

【実施主体】由布市健康増進課

【大綱の分類】3) 早期対応の中心的役割を果たす人材を養成する

【事業予算】 80 千円（H27 年度）

【利 点】

- ▼あまり交流のなかった支援者間に顔の見える関係を築くことができる。
- ▼アドバイザーに入ってもらうことで若手相談員の相談スキルアップに繋がる。
- ▼SCの活動内容を市（教育委員会含む）が知ることができる。
- ▼地域によって差のあった支援に関する情報量のある程度統一することができる。

【実施に至るまで】

#### 計画

- ①由布市は不登校の児童・生徒が比較的多く、数十年後の精神衛生が心配されるため今のうちから予防的な関わりが必要。
- ②児童・生徒への支援をしているSC-市教育委員会-市健康増進課間の新たな連携体制が必要。
- ③本年度は当事者へ直接働きかけるのではなく、当事者に関わる支援者のスキルアップをはかる。

#### 準備

- ①教育委員会（指導主事）への打診、関係者間の日程調整
- ②各校の学校長とSCへ依頼の文書送付
- ③教育委員会の心の教育に関する施策とのすり合わせによるテーマ選定（自傷行為と不登校）
- ④アドバイザーを他市大学の臨床心理士（自殺関連）に依頼

#### 具体的な内容

- ▼（1）自殺願望（自傷行為）のある生徒に対する支援 平成28年2月

- ・自傷行為のある児童・生徒への支援で気を付けている点について意見交換（８０分）

- ・中学校教員による自傷行為の事例紹介と全体検討２例（８０分）

- ・アドバイザーによるコメント

#### ▼（２）無気力な生徒に対する支援 平成２８年３月

- ・前回の振り返り

- ・中学校教員による不登校・無気力の事例紹介とグループ討論①（７０分）

- ・休憩（１５分）

- ・中学校教員による不登校・無気力の事例紹介とグループ討論②（７０分）

- ・アドバイザーによるコメント

#### 【成 果】

▼各学校のSCと保健師とが初対面の人も多く、顔の見える関係が構築できた。

▼自傷行為や不登校に関する課題について、社会的側面と心理的側面の両方から討論できた。

▼討論を通して、市内で可能な支援等の情報を共有できた。

▼アドバイザーからのコメントで事例提供した学校教員にも安心感が生まれた。

▼休憩時間を多く確保したことで日頃話せない困り等を話し合う参加者もいた。

#### 【補 足】

休憩の間も活発な議論で交流



#### 【課 題】

- ・SCの研修会出席時間は学校勤務時間を振り替える形で対応したため、その週の学校勤務時間が短くなった。

- ・顔の見える関係を築くことはできたが、複数校掛け持ちで時間的制限の多いSCとの連携には限界もある。

【事業種別】	研修実施
【準備期間・人数】	5ヶ月・3人
【予防段階】	2次予防
【自治体規模】	人口3.4万人 財政規模 約175億円
【自治体負担率】	無し（H27年度は地域自殺対策緊急強化基金を使用しているため）
【事業対象】	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保健師
【支援対象】	市内の小、中、高校生等
【実施主体・問合せ先】	由布市健康増進課 TEL：097（582）1120

※データは全てH27年度時点のもの

【参考資料・文献】

(ア) 由布市 HP <http://www.city.yufu.oita.jp/>